

発掘新聞

8月22日号

発掘速報展 2012

開催中不定期発行

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

こども考古学体験教室

参加者募集

大庭 銅

主任技師

鏡片発見

豊前市塔田琵琶田遺跡で 銅鏡片（破鏡）をまた発見

塔田琵琶田遺跡で発見された、内行花文鏡の破鏡と弥生時代終末の高坏口縁部片
|| 当館撮影



ロンドンオリンピックでの日本選手団の活躍に対して、興奮が冷めやらぬ中、現在当館が発掘調査を行っている県道犀川豊前線バイパス建設工事に伴う豊前市塔田琵琶田遺跡5次調査で、弥生時代終末頃（今から約1750年前）と考えられる竪穴住居跡内から、当時の中国から輸入した銅鏡（内行花文鏡）の破鏡が発見された。

豊前市塔田琵琶田遺跡は、これまで圃場整備及び東九州自動車道建設工事に伴い、豊前市教育委員会及び当館により発掘調査が行われ、主に古墳時代前期・後期の大規模な集落が発見されている。また当遺跡では、昨年度、古墳時代前期の竪穴住居跡から、今回と同種の内行花文鏡の破鏡一面が発見され、現在「発掘速報展2012」で展示されている。

今回発見された破鏡は、8月17日金曜日の午後2時30分頃、上層にある古墳時代後期（今から1400年前）の竪穴住居跡の柱穴を探すために住居床面をきれいに掃除していた際に、床面と下層の竪穴住居跡とのちょうど境部分から出土した。

発掘担当者の大庭主任技師は別の竪穴住居跡のカマドの写真撮影を行っていたが、発掘作業員さんから、「先生、鏡が出ました」の声があり、慌てて駆



けつけたところ、弥生時代終末頃の高坏口縁部下に黒光りする破鏡を発見。この後出土した状況の写真撮影と実測図作成後、取り上げ作業を行ったところ、内行花文鏡の破鏡であることが判明した。

現在は当館に持ち帰り、洗浄作業及び詳細な調査を実施中とのこと。

この調査成果については、来年度の発掘速報展及びで紹介する予定。

是非ご期待下さい！（大庭孝夫記者）

次号も不定期刊行ですが、現在発掘調査最終局面となっている行橋市福原長者原遺跡を取材する予定です。